

彙 報

平成三十一年・令和元年度密教文化研究所だより

本年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱として、研究所研究員を中核とした研究活動を展開し、伝統教学の継承と社会への普及に努めた。

各々の活動の詳細については、左記のとおりである。

〔研究会〕

○研究所研究会

※趣旨

研究所員・研究員の研究成果発表および学術的交流を趣旨とする。

※活動実績

十月十七日（木） 於…高野山大学第一会議室

徳重弘志 「イエズス会宣教師の書翰に基づく16世紀の真言宗」

北川真寛 「南山学道の歴史 ―勸学会における打集を中心に―」

十一月十五日（金） 於…高野山大学第一会議室

木下浩良 「新出の高野山奥之院鎌倉期五輪卒塔婆

―卒塔婆の起源と高野山町石のタイプ分類―」

○弘法大師著作研究会

※趣旨

研究所の事業の柱に、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」がある。本研究をおこなっていくためには、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確にかつ忠実に読解していく作業が必要不可欠である。平成二十七年から弘法大師の著作をテキストとして研究会を開催しその研究成果を公表するもの。

※会員

松長有慶、川崎一洋、北川真寛、櫻木潤、佐藤隆彦、高柳公禪、武内孝善、土居夏樹、徳重弘志、那須真裕美、藤田光寛、松長潤慶、南昌宏、米田弘仁

※活動実績

『声字実相義』の研究会を原則として月二回行った。

（発表者及び日程）

松長潤慶…四月十一日、四月二十五日、五月二十三日、六月十三日

米田弘仁…六月二十七日、七月十一日、九月二十六日、十月十日、

十一月七日、十二月五日

土居夏樹…七月二十五日、十月三十一日、十一月二十一日

※刊行物

研究会の成果を、『密教文化研究所紀要』別冊として、以下の内容で発行する。

『即身成仏義』の研究 令和二年三月 発刊予定

『声字実相義』の研究 令和二年三月 発刊予定

○チベット密教研究会

※趣旨

本研究会は、密教文化研究所専任研究員テンジン・ウセル（チベット仏教ゲルク派最高学位ゲシェー・ハラバ取得者）を中心にチベット語文献の訳読を進め、本学におけるチベット密教研究を推進することを目的としている。今年度は *Gurb mtha' rin chen phreng gi bka' khrid* をテキストとして開催。メンバーは以下の通り。

責任者…テンジン・ウセル（ダライ・ラマ法王庁派遣）

研究会員…藤田光寛（高野山大学名誉教授）

乾龍仁（高野山大学教授・学長）

奥山直司（高野山大学教授・副学長）

奥田剛（チベット仏教サキャ派ケンポ）

※活動実績（十二月末時点）

四月二日、四月十六日、四月二十二日、四月三十日、五月七日、

五月十四日、五月二十一日、五月二十七日、六月三日、六月十日、

六月十九日、六月二十五日、七月十六日、七月二十二日、八月五日、八月二十六日、九月二日、九月十日、九月十八日、九月二十四日、十月三日、十月七日、十月二十一日、十月二十八日、十一月四日、十一月十八日、十一月二十五日、十二月二日、十二月二十三日

○南山教学研究会

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当。活動内容の詳細は「平成三十一年・令和元年度南山教学研究会 活動報告」(本書29～30頁)を参照願いたい。

○真言教学研究会

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当。活動内容の詳細は「平成三十一年・令和元年度南山教学研究会 活動報告」(本書29～30頁)を参照願いたい。

○宗学連携事業

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当。問講の再治・増補に関しては高野山山内住職と共同で活動している。活動内容の詳細は「平成三十一年・令和元年度南山教学研究会 活動報告」(本書29～30頁)を参照願いたい。

○聖フランシスコ・ザビエルの書簡に基づく宗教間対話研究プロジェクト

(以下「ザビエル研究会」)

※趣旨

本研究会は、イエズス会の宣教師であったフランシスコ・ザビエルの書簡を題材として、高野山大学(密教文化研究所)とシアトル大学との有志者が共同研究を行い、ザビエルの日本滞在時にどのような宗教間対話が行われていたかを検証することを目的としている。

本年度は、高野山大学側の研究者が中心となり、ザビエルの書簡を仏教的なアプローチで多角的に検証した上で、シアトル大学で開催されたカンファレンスにおいて口頭発表を行った。

※会員

〔高野山大学側〕

佐藤隆彦(高野山大学教授・副学長)
奥山直司(高野山大学教授・副学長)
Thierry J. Robouan(上智大学元教授)
菊谷竜太(京都大学白眉センター特定准教授)
徳重弘志(高野山大学密教文化研究所専任研究員)
今中太定(シアトル高野山ヘッドプリースト)
〔シアトル大学側〕

Jason Wirth(シアトル大学教授)

Naomi Kasumi(シアトル大学教授)

Sharon Suh(シアトル大学教授)

Jessica Imanaka(シアトル大学准教授)

Michael Trice(シアトル大学准教授)

Douglas Peduti(シアトル大学講師)

※活動実績

〔学内研究会〕

第一回 九月二十四日(火)

徳重による口頭発表と、それに対する質疑応答

第二回 十月十五日(火)

Robouanによる口頭発表と、それに対する質疑応答

第三回 十月二十四日(木)

佐藤による口頭発表と、それに対する質疑応答

第四回 十二月三日(火)

シアトル大学におけるカンファレンスの総括

〔シアトル大学との共同研究会(インターネット会議)〕

第一回 六月十九日(水)

高野山大学とシアトル大学の全メンバーの顔合わせ、研究方針等の確認

第二回 九月十九日(木)

シアトル大学で開催されるカンファレンスについての協議

〔カンファレンス（於 シアトル大学）〕

十一月十五日（金）

高野山大学側の参加者が主体となり発表を行った。各人の発表テーマは、下記の通りである。

- ・佐藤：A study of Xavier's letters from the viewpoint of present Shingon-Buddhism.
 - ・Robouam：The Francis Xavier Event in the Mirror of the Lotus Realm.
 - ・菊谷：Empyreum and Sukhāvati: Cosmological Context of Xavier and his background.
 - ・徳重：Contrasting Buddhists and Christian vision of Hell.
- 十一月十六日（土）

シアトル大学側の参加者が主体となり、各人の研究内容について簡潔に説明を行った。なお、シアトル大学側は、次年度の九月に高野山大学で開催される予定のカンファレンスにおいて、口頭発表を行うことになっている。

○巡礼遍路研究会（協力事業）

※趣旨

四国八十八ヶ所、西国三十三所等、日本国内ならびに世界各地の巡礼に関する研究・成果発表を行うと共に、会員相互の懇親を図る。

※役員

会 長：山陰加春夫（高野山大学名誉教授）

柴谷宗叔（令和元年六月二十二日就任）

事務局長：柴谷宗叔（密教文化研究所受託研究員）

※会員数

二百五名（法人・団体含む）

※活動実績

第六回研究発表会

日時：令和元年六月二十二日（土） 於：愛媛大学法文学部本館八階大会議室

基調講演

胡光（愛媛大学法文学部教授／四国遍路・世界の巡礼研究センター長）

「明治維新と四国遍路―高群逸枝『娘巡礼記』の歴史的前提」

研究発表

鬼頭尚義 「端四国八十八か所」の御詠歌考

―西国・四国からの本歌取りを中心に―

山本孝弘 「報恩大師備前四十八ヶ寺について」

鴨井智峯 「伊予大島准四国について」

三島健司 「播磨西国三十三カ所札所番の変遷と徒歩巡礼道」

〔講演会〕

○人權講演会（共催：高野山真言宗社会人権局）

日時：令和元年七月十七日（水） 於：高野山大学第三会議室

川口泰司（一般社団法人 山口県人權啓発センター事務局長）

「寝た子」はネットで起こされる!? ネット社会と部落差別の現実」

日時：令和元年十二月十一日（水） 於：高野山大学第三会議室

川口泰司（前掲）

「差別っていったいなんやねん？―私と部落問題―」

〔シンポジウム〕

○「高野山研究における古絵図資料の可能性とその活用」

（私立大学研究ブランディング事業）

日時：令和元年十月六日（日） 於：高野山大学難波サテライトキャンパス

第一部 基調講演

山陰加春夫（高野山大学名誉教授）

「高野の聖たち ―高野山―心院谷の場合―」

第二部 特別講演

小林健二（国文学研究資料館名誉教授）

「太閤秀吉の高野参詣で新作上演された豊公能をめぐって」

第三部 パネルディスカッション

パネリスト

山陰加春夫（前掲）

佐藤隆彦（高野山大学教授・副学長・密教文化研究所所長）

入谷和也（高野七口再生保存委員会事務局）

藤田実紀（株式会社 Sroly）

コーディネーター

櫻木潤（高野山大学専任講師）

平成三十一年・令和元年度研究活動報告

専任研究員 徳重 弘志

【研究活動概況】

筆者は、高野山大学密教文化研究所が掲げる三大研究領域（弘法大師の思想とその展開に関する研究、「密教の形成と流伝に関する研究」、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」）のうち、「密教の形成と流伝に関する研究」に従事している。

本年度の成果としては、① *Guhyanavahika* におけるシヴァとインドラに対する調伏の差異の原因究明、② 『大日経疏演奥鈔』所引の後期密教経典の特定、③ イエズス会宣教師の書翰・報告書に基づく十六世紀中葉の真言宗の実態の解明、④ 仏教とキリスト教における地獄観の比較、といった四点が挙げられる。

①に関しては、『金剛頂経』系統の中期密教経典には「降三世明王の諸天調伏譚」が共通して記されているが、それらの中でも *Guhyanavahika* のみ、「インドラが調伏を免れる場面」が記されていることを指摘した。その上で、シヴァとインドラに対する調伏の差異の原因が、世尊に対する恭順の意の有無であることを明らかにした。

②に関しては、「宋代翻訳密教経典」に言及する日本・中国で撰述された文献を特定し、『大日経疏演奥鈔』こそがそれらの密教経典に対する言及数が最も多い文献であることを明確にした上で、同文献に引用された「後期密教経典」の用例について検討を行った。その結果、インド・チベットとは異なり、日本・中国において最も重視されていた「後期密教経典」は、*Mayajala-tantra* である蓋然性が高いと判断するに到った。

③に関しては、長崎版『日葡辞書』を対象として「真言宗と関連する用語」の調査を行い、その成果を踏まえて、真言宗について直接的に言及するイエズス会宣教師の書翰・報告書を特定した。さらに、先行研究では等閑に付されてきた、真言宗について間接的に言及する書翰・報告書の存在を指摘し、当該箇所原文と和訳とを提示した上で、真言宗と関連すると見做した根拠について説明を行った。

④に関しては、高野山大学（密教文化研究所）とシアトル大学との有志者による共同研究の一環として、フランシスコ・ザビエルが一五五二年一月二十九

日付の書翰の中で仏教徒の地獄観を批判した点に着目し、仏教とキリスト教における地獄観の比較を行った。具体的には、当該の書翰に関する先行研究の問題点を指摘した上で、仏教における地獄観について『阿毘達磨俱舍論』と『施設論』を中心に要点整理を行った。

【研究発表】

- ・『大日経疏演奥鈔』所引の後期密教經典について、密教研究会学術大会、七月十二日（金）、於 高野山大学。
 - ・『Chūyamantika』におけるシヴァとインドラに対する調伏の差異」、日本印度学仏教学会 第七十回学術大会、九月七日（土）、於 佛敎大学。
 - ・「イエズス会宣教師の書翰に基づく十六世紀の真言宗」、高野山大学密教文化研究所研究会、十月十七日（木）、於 高野山大学。
 - ・“Contrasting Buddhists and Christian vision of Hell.” Seattle University Mini-Conference (Buddhist/Christian Dialogue: Departing from St. Francis Xavier's Japan Letters) 十一月十五日（金）、於 シアトル大学。
- 【論文】
- ・『大日経疏演奥鈔』所引の後期密教經典について、『密教文化』第二四三号（掲載予定）。
 - ・『Chūyamantika』におけるシヴァとインドラに対する調伏の差異」、『印度学仏教学研究』第六八巻第一号。
 - ・「イエズス会宣教師の書翰・報告書に基づく十六世紀中葉の真言宗について」、『高野山大学密教文化研究所紀要』第三三三号。

平成三十一年・令和元年度 南山教学研究会活動報告 委託研究員 北川真寛

【研究活動概況】

南山教学研究会では、高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資することで、密教興隆を図ることを目的として活動している。

そのため、平成二十五年度に密教文化研究所所属の研究員や研究員を中心とした有志による南山教学研究会を発足させ、平成三十一年・令和元年度は、次のような活動を実施している。

- ① 南山の論義書の輪読会
 - ② 論義に関する調査・研究による研究発表と学術雑誌への投稿
 - ③ 南山・智山・豊山による論義研究会
 - ④ 高野山勸学会への協力
 - i 勸学会における講義の実施・聴聞
 - ii 勸学会で用いられる『本書』と『打集』の活字化と校訂
 - ⑤ 山内論義で用いられる論義資料の調査と再治・増補
- これらの総合的かつ横断的な活動により、南山教学の特徴を少しずつ解明している。ただしまだまだ多くの論題が残されていて、今後もさらにこれらの活動を進めていく。
- 参加者・土居夏樹 研究所員・高野山大学准教授
北川真寛 委託研究員（事務局）
高柳公禅 助手

（以上、輪説会発表担当者）

- 南昌宏 高野山大学教授
- 中西雄泰 高野山引撰院
- 高岡隆真 高野山明王院
- 内海周浩 高野山本願院
- 安田弘明 高野山親王院

山本昌芳 高野山大学大学院生
その他、大学院生・大学生など

【輪読会の開催】

- ・六月二〇日（木）一五時～一六時三〇分
北川真寛 「報身報土」
- ・一月一九日（木）一五時～一六時三〇分
高柳公禪 「心法色形」
- ・三月五日（木）一五時～一六時三〇分
土居夏樹 「十地仏果」

【研究発表・論文】

- ・一〇月十七日（木） 密教文化研究所研究会
北川真寛 「南山学道の歴史―勸学会における打集を中心に―」
- ・土居夏樹 「六大仏形」について（『密教学研究』五一）
「三種即身成仏」について（『智山学報』六九）
- ・北川真寛 「報身報土について―真言密教の論義書を中心に―」（『智山学報』六九）

【真言教学研究会】

- ・一〇月一〇日（木）一五時～一七時 於高野山東京別院
講演会「中院流について」
講師：中西雄泰（高野山専修学院監事・本学非常勤講師）
- ・三月一三日（金）一五時～一七時 於大正大学
「真言密教の教主義」
発表者：佐藤もな（帝京高等看護学院非常勤講師）
鈴木雄太（智山伝法院常勤研究員）

【宗学連携事業】

- ・勸学会の期間中に、勸学会出仕者に対して講義を行った（三密双修について）。

・『大日経疏』一末上半の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打集』の誤植や誤りを校訂した。

・問講の謂立を集成した『法談論議要集』や『山王院並御影堂月並問講集』、さらには『宗釈難答一重集』に収められた釈論論題の再治・増補を行い、現在も続けられている問講の充実に資する資料の作成を目指して活動している。そのため高野山住職会・金剛峯寺法会課などの協力を得て、『法談論義拾葉集―釈論篇―』として宝性院版・無量寿院版・付録の三冊を出版した。

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の再治・増補に関しては高野山山内住職と共同で活動している。

密教文化研究所構成員名簿（令和二年三月現在）

○所長

佐藤隆彦（高野山大学教授・副学長）

○顧問

松長有慶（高野山大学名誉教授）

○専従研究所員

佐藤隆彦（兼務）

○兼任研究所員

奥山直司（高野山大学教授・副学長）

櫻木潤（高野山大学専任講師）

土居夏樹（高野山大学准教授）

トーマス・ドライトライン（高野山大学教授・図書館長）

松長潤慶（高野山大学教授）

南昌宏（高野山大学教授）

○専任研究員

徳重弘志（高野山大学非常勤講師）

テンジン・ウセル（高野山大学非常勤講師・ダライ・ラマ法王庁派遣）

○委託研究員

今中太定（シアトル高野山ヘッド・ブリスト ※ザビエル研究会）

入谷和也（高野七口再生保存委員会事務局 ※ブランドイング事業）

菊谷竜太（京都大学特定准教授 ※ザビエル研究会）

北川真寛

（高野山大学非常勤講師 ※南山教学研究会・弘法大師著作研究会等）

テイエリ・ロボアム（元上智大学教授 ※ザビエル研究会）

○受託研究員

木下浩良（高野山大学総合学術機構課長・密教文化研究所事務室長）

静春樹（高野山大学非常勤講師）

柴谷宗叔（巡礼遍路研究会事務局長）

○研究所事務室

木下浩良（前掲）

波多野智人

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

- 第1条 密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。
- 第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。
 (1) 研究所長
 (2) 専従研究所員
 (3) 「紀要」編集担当者
- 2 編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。
- 第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。
- 第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。
 (1) 「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。
 (2) 「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。
- 第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。
- 第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。
- 附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する。
- 附則 この規程は、平成14年5月22日から施行する。

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

- 第1条 『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。
- 第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 (1) 研究所長
 (2) 研究所員
 (3) 研究員
 (4) 編集委員会が適当と認める者
- 第3条 原稿は、原則として400字詰原稿用紙70枚以内とする。
- 第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な変更・追加等は認めない。
- 第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。
- 第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。
- 第7条 寄稿者には、掲載誌2部および抜刷30部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。
- 附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

執筆者紹介（掲載順）

木下浩良 密教文化研究所受託研究員
元山慧香 高野山大学事務職員
徳重弘志 密教文化研究所専任研究員
静春樹 密教文化研究所受託研究員

編集後記（所長）

- 『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十三号をお届け致します。
四人の執筆者による論考は、本年度の密教文化研究所の研究成果の一端を飾るものです。読者諸氏におかれましては、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。
- 本年度は、研究所研究会、弘法大師著作研究会、南山教学研究会、ザビエル研究会といった各種研究会が活発に活動した一年となりました。その内、弘法大師著作研究会の研究成果を『密教文化研究所紀要』別冊として刊行し、教学の継承と普及、発展に向けて、一歩前進した年とも位置付けております。
- 今年度も、高野山真言宗社会人権局との共催による特別講演を開催し、人権に対する理解を深めるための活動を、歴史的・社会的観点から行いました。
- 文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に基づき、「高野山アーカイブ」「古絵図であるく高野山」の作成・熟成により、デジタルにおける研究支援を、密教など本学が得意とする分野で活発に進めております。
- 今後とも、密教文化研究所の活動にお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。
-

高野山大学密教文化研究所紀要 第三十三号

令和二年三月二十一日 印刷

令和二年三月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 佐藤 隆彦

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学

電話(〇七三六)五六―二三九〇 千六四八―〇二八〇

印刷所 株式会社 協和

和歌山県海南市南赤坂五―三

電話(〇七三)四八三―五二二一 千六四二―〇〇一七